

広島県 の 分 権 改 革 の 流 れ

我が国の現状

社会環境の変化

- 「中央集権」から「地方分権」へ
- 「増大(右肩上がり)」から「縮小(右肩下がり)」へ
- ・ 人口の減少、少子・高齢化社会の急速な進展
- ・ 低経済成長時代の到来

価値観、住民ニーズの変化

- ・ 「量的拡大」から「質的充実」へ
- ・ 「画一・平等」から「個性・多様性」の尊重へ

広島県の現状

目前に迫った市町村合併

- ・ 市町村数は1/3に減少、大半が「市」に移行

県・市町村を通じ財政はバンク状態

- ・ 未曾有の危機的財政状況、さらに三位一体改革による影響も懸念

求められる効率的で“小さな”行政

行政への影響

「これまでの行政は変わらざるを得ない」

●サービス提供主体の“最適化”

- ・ 国・県・市町村、行政と民間の役割分担の明確化。行政の守備範囲の見直し

●事務執行の“最適化”

- ・ 業務プロセスの改革、規制の緩和・撤廃、国・県・市町村の重複行政の排除

●資源配分の“最適化”

- ・ 限られた行政資源(カネ・人・モノ)を真に重要かつ必要な政策課題へ最適配分

分権改革の手法

●市町への大胆な事務・権限移譲

- ・ 可能な限り、合併後の基礎的自治体が総合的な行政主体として、住民に身近な事務を処理する行政システムを構築

●市町の行政体制整備への総合的な支援

- ・ 市町が移譲された事務を円滑に行うため必要な財源措置や人的支援措置等

分権改革の目指すもの

●個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現

●自己完結型自治体への転換

県の将来像 (分権フレーム)

●国・県・市町村、行政と民間の役割分担の抜本的見直し

- ・ 国・県・市町村の役割分担の明確化
- ・ 行政の守備範囲の見直し

「県」の役割分担を明確化

県庁の改革

県庁の行政システム改革の工程イメージ

【理念】

【メニュー】

【展開】

【ねらい】

最も効率的で
「小さな」県庁

「県民起点」と
「成果重視」

●組織機構の改革

地域事務所、本庁組織の再編

●定員管理の適正化

経営戦略の策定、予算編成プロセス改革、

庁内分権、事業の戦略化・重点化

●業務プロセスの改革

行政サービスの向上、簡素・効率化

●職員の人材育成と意識改革

多様な人材確保・育成、職場活性化

●給与・任用制度の改革

能力・実績重視の人事管理、多様な任用

形態とその人事管理、給与制度

●開かれた県政のあり方

情報公開、県政への県民参加、県民との

協働・連携

●県出資法人の見直し

●「県」としての役割・強みを発揮

・ 地域全体の総合プロデューサー

・ 政策集団

・ 県民の安全・安心の確保

●より効率的で高質な県民サービスを提供できる行政運営システムへの転換

管理 → 経営、統治 → 協治

《組織風土・体質改善》

・ 国中心・行政主導 → 県民起点

・ フルセット、総花主義 → 選択と集中

・ 予算獲得主義 → 成果重視

透明性・説明責任

●定款的・弾力的な財政構造への転換

・ 構造的な財源不足の解消

●活力と安心がある元 気な広島県の実現

●県民満足度を高められる 小さな県庁への転換

都道府県再編等

地方分権改革（広島型システム）を徹底的に推進